

## 病害虫発生予察注意報(第4号)

平成26年11月28日  
神奈川県農業技術センター

病害虫名：うどんこ病

作物名：イチゴ

1 発生地域：県内全域（イチゴ栽培地域）

2 発生量：多

### 3 注意報発令の根拠

- (1) 11月の巡回調査におけるイチゴうどんこ病の発生株率は、7.7%と平年（2.1%）に比べて高く、過去10年の同時期で平成21年に次いで高い数値となっている（図1）。
- (2) 11月の巡回調査では、調査ほ場の5割でうどんこ病の発生が見られ、そのうち発生株率が10%以上のほ場が半数以上である。
- (3) うどんこ病の発生は10月から11月にかけて増加している（図2）。ハウス内は、栽培終了まで、うどんこ病菌の増殖に好適な環境にあるため、今後も発生が増加する可能性がある。

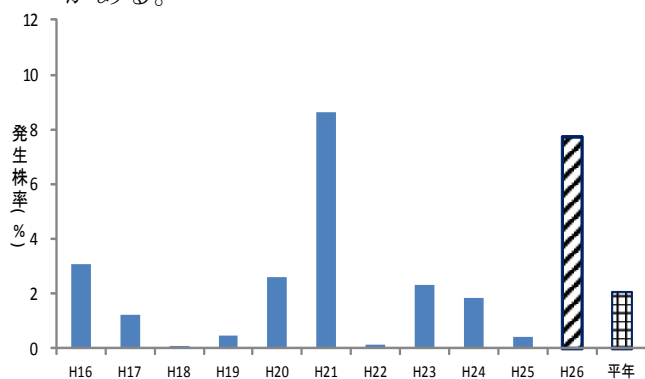


図1 巡回調査(11月中旬)における年次別うどんこ病発生株率

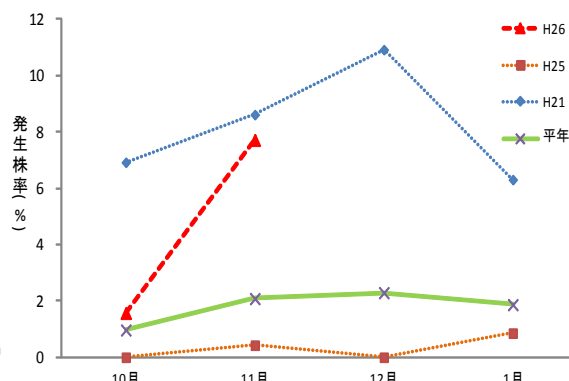


図2 巡回調査におけるうどんこ病の発生株率の推移

### 4 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生が見られるほ場では、発病葉や果実をできる限り除去し、ほ場外で適正に処分する。本病は葉裏に発生することも多いので、葉裏もよく観察する。
- (2) 発生が見られるほ場では直ちに薬剤防除を行う。できる限り発病部位を除去した後、治療効果の高い薬剤を5日程度の間隔で2～3回散布する。その後は予防薬剤を散布し防除を徹底する。薬剤が葉裏や果実にもかかるよう、十分な液量を丁寧に散布する。
- (3) 果実での発病を防ぐため、硫黄粒剤のくん煙処理も有効である。なお、薬害を生じないように処理時間に十分に注意する。
- (4) 草勢の衰えや、窒素肥料の過多および葉の過繁茂は発生を助長するため、適切な栽培管理を行う。

## 5 防除薬剤

防除薬剤の例を表に示した。なお、農薬使用の際は適用作物、使用量、使用濃度、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認する。

薬剤防除にあたっては同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、QoI 剤（アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤など）やSDHI 剤（アフエットフロアブル、カンタストライフフロアブルなど）は耐性菌を生じやすいため、1作1回までの使用が望ましい。

表 薬剤例

効果	施用方法	分類記号	薬剤名	成分など	使用時期、使用回数	ミツバチへの影響日数 *6	天敵(カブリダニ類)への影響 *7
治療のみ		-	エコピタ液剤	物理的阻害剤	[前日, -]	A	
		-	サンクリスタル乳剤 *1	物理的阻害剤	[前日, -]	A	○
		-	アカリタッチ乳剤	物理的阻害剤	[前日, -]	A	△
		NC	カリグリーン *2	炭酸水素カリウム	[前日, -]	A	◎
予防		F6	インプレッション水和剤	微生物剤	[発病前から発病初期, -]	A	
		-	タフパール *3	微生物剤	[発病前から発病初期, -]	A	
		M2	イオウフロアブル	無機硫黄	[-, -]	A	○
		M1	サンヨール	有機銅剤	[前日, 6回]	A	○~△
予防・治療	薬剤散布	D1	フルピカフロアブル	フルピカリン	[前日, 3回]	A	◎
		NC+M1	ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム+銅	[前日, -]	A	◎
		G1	トリフミン水和剤 *4	トリフルミール	[前日, 5回]	A	◎
		G1+U6	パンチョTF顆粒水和剤 *4	トリフルミール+シルフェナミド	[前日, 2回]	A	◎
		C3	アミスター20フロアブル	アキシストロビン【QoI 剤】	[前日, 本ほ3回]	-	◎
		C3	ストロビーフロアブル	クシキメチル【QoI 剤】	[前日, 3回]	A	◎
		M7	ベルクートフロアブル *5	イミダクジン	[前日, 2回]	A	◎
		M7+G3	ダイヤモンド *5	イミダクジン+フェンキサミド	[前日, 2回]	-	
		M7+C3	ファンベル顆粒水和剤 *5	イミダクジン+ピリベンカルブ【QoI 剤含】	[前日, 2回]	A	
		C2	アフエットフロアブル	ベンチオピラト【SDHI 剤】	[前日, 3回]	B	◎
予防	くん煙	U13	ガッテン乳剤	フルチアール	[前日, 2回]	A	◎
		M2	硫黄粒剤	無機硫黄	[-, -]	-	

注) 分類記号は Japan FRAC ホームページの FRAC コード表(2014年5月版)より抜粋。

\*1 サンクリスタルはストロピルリン系薬剤(アミスター、ストロビーなど)を散布した後は2週間以上間隔をあけて散布する。

\*2 カリグリーンは展着剤を必ず加用する。

\*3 タフパールは展着剤ニーズを加用しない。

\*4 パンチョ TFはトリフミンと同成分が含まれるため、総使用回数に注意する。

\*5 ダイヤモンド、ファンベルはベルクートと同成分が含まれるため、総使用回数に注意する。

\*6 神奈川県病害虫雑草防除指導指針より抜粋。

・薬液が乾かなかつたり臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合があるので、薬剤散布前日の夕方に巣門を閉めたうえ施設外に移し、薬剤の処理を行うようにする。

・巣箱を再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認のうえ、巣門を開けるようにする。

A: 散布当日から散布一晚経過の後、巣箱を再導入できる B: Aに該当しない農薬で48時間以内に巣箱を再導入できる - : 影響不明

\*7 アリスタライフサイエンス(株)作物保護製品ガイド2014よりミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響を抜粋。空欄は記載がないもの。

◎: 死亡率0~25% ○: 25~50% △: 50~75% (野外・半野外試験)

◎: 死亡率0~30% ○: 30~80% △: 80~99% (室内試験)

神奈川県農業技術センター  
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>